

みなと元町

タウンニュース

No.
326

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

「神戸そごう」から「神戸阪急」へ まちに開かれた百貨店となるか？

合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦

くつていく(＝まちをひらく)ことで、神戸の都心構造が強化され、象徴的な空間が創出される』ということを紹介した。神戸阪急は、この三宮クロススクエアに面する街区であるものの、いまは北側や東側に対して開かれた空間を持っていない。神戸大丸あるいは元町商店街にとっては、現状の大丸前交差点が歩者分離で人が各街区を自由に歩いて渡ることができるため、休日ともなると1回の青信号で200人を超える人が同時に回遊している様子が見られるが、こうした行きやすさが商店の売上や商店街の賑わいにも大きく影響していると思われる。

三宮クロススクエアの一部車道の車線数減少が実施されるのが、早くて2025年ごろと言われているが、それまでの間、神戸そごうがいかにか将来を見越して「まちに開いた店づくり」ができるかが、鍵のように思う。神戸の街には、ワンストップ型の百貨店はいらない。まちと有機的につながった百貨店こそが、神戸の魅力を活かす商業集積の要となりえるし、また都心回遊者を増やすために必要なことだと思う。

どのような展開となるか、注目したい。

側の被害が大きかったフロアを撤去したコの字型の売り場としたため、売り場面積を減らすこととなった。1年後に営業再開した大丸は、北西側被災部分を建て替えて、外装も震災前のガラス窓から神戸そごうのお株を奪うような白を基調としたクラシックなファサードとなり、売場面積もそごうを上回ることができた。結果、地域一番店の座は、そごうから大丸に移り、2000年にはそごうが経営破綻し、事実上の倒産となったのである。

その後の紆余曲折を経て、神戸そごうはついに2019年9月30日をもって閉店し、10月5日から神戸阪急へと生まれ変わることであった。私たちの幼少期のように、もはやデパートへのお出かけは、子どもにとっても大人にとっても特別なイベントではない時代に、神戸阪急はどのような戦略で、神戸の百貨店の雄である神戸大丸に挑むのだろうか？

そこでキーワードになるのが、「回遊」と「まちを開く」ということ。2018年10月号のタウンニュースで、『三宮クロススクエアという公共空間に面する街区の民間開発が積極的に公共空間に対して開かれた空間をつ

灘区に生まれた私は、子どものころ誕生日が近づくと、母と弟妹の4人で阪急西灘駅(現・王子公園駅)から電車に乗って三宮に出て、神戸そごうのおもちゃ売り場でプレゼントをおねだりした。いまでも覚えているのは、実写アニメのキャラクターであるロボコンの超合金(今でいうフィギュア)を買ってもらった後に、7階のレストランでお子様ランチを食べたこと。今の時代のように外食が当たり前ではなかった私にとっては、三宮のそごうで、買い物をして食事をして帰るという休日は、特別感の高いものであり、いわば「ハレ」の場所での贅沢な時間であった。

神戸そごうの全盛期は、神戸大丸の売り上げの倍を売り上げていたとも言われており、神戸の百貨店は名実ともに「そごう」であった。現在の本館は、三宮阪神ビル+三宮さくらビル+自社ビルを束ねて、サイディングで覆うことで1981年にひとつのビルのようになった訳であるが、私は、覆われる前の1933年新築時のモダンなデザインの三宮阪神ビルをギリギリ知っている世代である。いまでも、フラワーロード沿いの三宮交差点に近い阪神神戸三宮駅に繋がる階段を降りると、重厚かつ上品なデザインが目に残る。壁面にはステンドグラスが施されているほか、腰あたりまで壁は大理石が使用されており、梁や天井近くの廻り縁など、手のかかった意匠が随所にみられ、何とも言えず落ち着いた空間が今も息づいている。

そんな神戸そごうで育った私も、大学生になった頃には、めっきり出入りすることも無くなり、社会人になって2年目の冬に起こった阪神・淡路大震災からの復興で、神戸そごうと神戸大丸は大きく明暗が分かれることになった。復興後の営業再開こそ、そごうが大丸よりも早かったものの、北



1933年当時のファサードが見えていた頃の神戸そごう



神戸そごう最後の日。壁には阪急の文字を入れるための土台が仕込まれていた。



阪神神戸三宮駅に降りる階段室のデザイン

「元町・夢街道」
書店の話(27)
海文堂書店①

岩田 照彦

本稿は、平成二十七年七月出版の平野義昌著「海の本屋のはなし」をもとに紹介させていただく。

海文堂は、大正三年、神戸市多聞通六丁目で開業した賀集書店にはじまる。明治八年生まれの創業者賀集喜一郎は、淡路島の洲本出身で若いころの五年間、朝鮮や台湾で海運業についていた。当時、活況を呈していた海運の世界から書店界に転じた理由はわからない。日常の風景に、目の前を行き交う船の姿が視野のなかにある神戸。喜一郎は船を操る体験を通して、運航にたずさわる者のための身近な知識不足を感じていたのではないだろうか。その不便を取り除く術を見出してやろうと、海事図書出版に力をいれた。

同社が発行した最古の本は、大正五年発行の「摘要産婆学」とされる。が、大正八年の目録には「航海表」、「実用航海術」、「羅針儀目差必修整全」、「造船学」、「船舶の衝突と其の責任全」のほか月刊誌「海の世界」など、四五点すべて海事関係が占めている。

同社の名前が元町商店街に登場するのは大正十二年。喜一郎は、元町商店街進出を機に、大正十四年から十五年にかけ「海事大辞書全三巻」を刊行する。大正のはじめ、第一次世界大戦は、圏外にあった日本の造船、鉄鋼、海運な

ど、すべての業界に注文が殺到、未曾有の好景氣にわいた。が、大戦が終息すると、日本の経済をどん底に落とし入れる。大正七年、米騒動を発端にした鈴木商店の焼き討ち事件、翌八年の戦争終結で三菱神戸、川崎造船所の人員整理と労働争議のあとである。海事大辞書の出版に、日本郵船の第三代社長・近藤康平が私財で設立した記念海事財団の目にとまり、補助金も得たが、辞書に投じた負債は大きく、倒産の危機に直面する。それでも喜一郎は、海の世界にこだわった。大正十五年六月、賀集書店を海文堂と改める。

昭和五年、兵庫県加東郡生まれの岡田一雄が、海文堂へ入社する。実家は八百屋・乾物商で、県立商業学校卒業後、珈琲の輸入業で成功したという。賀集家との関係は分からない。裏付けるものはないが、倒産の危機に見舞われた海文堂への資金提供があったのだろうか。昭和十五年、賀集が六十六才で他界すると、岡田一雄が代表社員となる。

昭和二十年、神戸大空襲で海文堂は焼失、焼け跡を整備して昭和二十一年十月から営業を再開した。当時一雄の夫人が、子供を背負いゲラを校正する姿がみられたというから、岡田一家は、創業者の喜一郎に負けず、本を創ることへの思いが強かったことがうかがえる。海文堂書店の中央カウンターの机に、岡田一雄の言葉が貼られていたという。

われわれはよい書籍を出版しよう／でき得れば利益を得たいがやむをえなければ損をしてもよい／(中略)／出版の文化的使命は重い

南京町
中秋節
2019

9月13日(月)～16日(月)まで、南京町商店街では22回目になる中秋節をひらいた。南京町の広場では初日、南京町で人気の8店舗に加え横浜中華街の1店舗も参加、「好吃広場」で来場者の口を堪能させたのにはじまり14日～16日までは神戸華僑総会舞獅隊や神戸中華同文学校舞獅隊による獅子舞、神戸中華同文学校民族舞蹈部の舞踊などで来場者をもてなした。また期間中、1回500円で組合加盟店共通金券(特等5千円、1等3千円、2等千円、残念賞500円)があたる巨大ガラポンも用意、訪れる人たちを楽しませていた。



ひろばの一角で活躍中の巨大ガラポン

10月12日(土)～10月25日(金)

『Workers被災地に起つ』

『ディリリとパリの時間旅行』

10月19日(土)～10月25日(金)

『あいが、そいで、こい』・『老人ファーム』

10月19日(土)～11月1日(金)

『太陽がほしい』・『アートのお値段』

10月26日(土)～11月1日(金)

『お百姓さんになりたい』

『ニッポニアニッポン フクシマ狂想曲』

『ガーデンアパート』



栄町通クリーン作戦



栄町通クリーン作戦は雨天の為中止となりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

編集後記

協議会の地域内で、阪神淡路大震災を機に変貌いちじるしいのは栄町通。銀行や保険会社が並ぶ建物が多くが被害を受け、マンションという形で住宅街に変貌していった。その範囲は、元町通二丁目からハーバーロードまで広い範囲になっている。マンション化の傾向は、栄町通にかぎらず元町商店街にも波及した。一階は店舗に、という地元の総意で決まった規則のもと、商業機能を維持しているのは、商店街の誇りともいえる。こうした住居施設の整備によって、住民の期待に応えようと、六丁目で産声をあげた八百屋さんは、今や三丁目まで見られるようになった。一番街に八百屋を営む店はないが、休日にも人を集めようと月に一度、県産品の「水曜市」を定着、暮らしにやさしい元町商店街の顔になっている。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 10月

◆神戸元町商店街連合会

神戸元町ミュージックウィークストリートコンサート

10月5日(土)6日(日)12時～17時(6日17時45分)

神戸元町商店街周辺地域

◆元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

水曜市 10月16日(水)11時～19時

◆元町3丁目商店街振興組合 TEL322-2797

ハロウィン記念撮影会 10月27日(日)12時～17時

カルディ付近

◆元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477

モトロク市 10月5日(土)11時～17時

◆風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち密着「愚雑草」 10月10日(木)

桂 團治郎 桂 阿か枝 林家 染雀

笑福亭 銀瓶 桂 南天 桂 南光

前売券は9月11日より風月堂で発売

◆元町映画館(有料) TEL366-2636

10月5日(土)～10月11日(金)『王様になれ』

10月12日(土)～10月18日(金)

エトガル・ケレット&シーラ・ゲフェン映画祭

『無限ファンデーション』・『バイオレンス・ボイジャー』

海という名の本屋が消えた（71）

平野義昌

元町通周辺地名の歴史(1)

必要があって私の居住地旧地名を調べた。江戸時代から明治初めまで、神戸市中央区楠町、橋通、多聞通は「摂津国八部郡坂本村」だった。1880(明治12)年1月、「坂本村」は「神戸区」に組み込まれた(「神戸市」誕生は10年後)。現町名はすべて「楠木正成」にちなむものだ。大倉山にある広巖寺(こうごんじ、臨済宗)は正成の菩提寺で、楠寺と呼ばれる。1692(元禄5)年、寺の僧が徳川光圀に働きかけ「嗚呼忠臣楠子の墓」の石碑が建立された、と伝えられている。1872(明治5)年、この地に湊川神社が創建された。尊皇愛国のご時世、正成の影響力は大きい。地名「坂本」は消えてしまった。

本題。元町通は西国街道の一部である。江戸時代、街道沿いに東から「神戸村」「二茶屋村(ふたつちや)」 「走水村(はしうど)」の三カ村があった。話の順序として「生田神社」から始める。神話では、神功皇后朝鮮出兵帰国の際、難波近くで船が立ち往生、武庫の水門(みなと)まで引き返した。天照大神の託宣があり、この地に広田神社を創建する。次に稚日女尊(わかひるめのみこと)の託宣で活田長峽国(いくたながおのくに)に生田神社を祀る。補註1

806(大同元)年、朝廷から「生田神社」に「封戸(ふご・ふこ)」44戸が与えられた。租・庸・調を納める「神戸(かんべ)」の役目で神社を支えた。この「神戸(かんべ)」が地名「神戸(こうべ)」の由来とされている。古代の史料には「神戸郷」とあり、中世には「紺部(こんべ)」という文字も当てられている。他に「紺戸」「神部」「上部」「頭」「上辺」「押辺」なども用いられる。江戸時代初めの絵図「慶長国絵図」には「コウベ」の表記がある(註1)。旧カナ表記「カウベ」定着以前のことだろうが、少なくともこの時代には「コウベ」と発音していたと考えられる。

「神戸村」は現在の元町通・栄町通(各1～3丁目)、三宮町、山本通の一部など(山手に広大な耕作地があった)にあたる。村の氏神は「生田神社」の裔神社「三宮神社」である。古地図「開港神戸之図」(1868年4月、早稲田大学図書館所蔵、写真)の「三宮神社」西側に「河原ツカ」とある。源平合戦・生田の森の戦いで源氏の先陣を勤め、討ち死にした河原太郎高直・次郎盛直兄弟を祀る。源頼朝が二人の菩提を弔い、「報恩寺」を創建した(戦国時代末期に焼失)。現在「河原兄弟塚」は三宮神社境内に鎮座している。神戸銘菓「瓦せんべい」が「河原兄弟」にちなむという説がある。「亀の井亀井堂本家」は「瓦せんべい」由来について諸説紹介している。註2 (1)湊川神社氏子が瓦を寄進した際に売り出した (2)河原兄弟の姓から「河原せんべい」 (3)戦場での手柄に対して瓦に焼印を押して渡し、あとで恩賞を授けたことから

一方、「亀井堂総本店」は、創業者の趣味である古代瓦蒐集から、と説明する。註3 「亀井堂」は複数社あるが、「瓦せんべい」に描かれている武者はいずれも「楠木正成」だ。さて、「神戸村」の主産業は農業、それに酒造業や海運業従事者が増える。〈江戸時代は海岸に沿った村として発展、寛文九

年(一六六九)頃は船数三十五隻だったが、宝永五年(一一七〇八)に二倍強の七十六隻になっている。安政五年(一八五八)には家数七百三軒の大村となった。〉註4

「三宮神社」境内には「神戸事件」石碑があり、備前藩の大砲が展示されている。1868(慶応4)年1月11日、神社前で「事件」が起きた。外国人水兵2名が備前藩の隊列を横切ろうとした。備前兵が制止するも言葉が通じず紛糾、砲術隊長・瀧善三郎が水兵を槍で負傷させた。双方が発砲、神戸港沖に停泊中の艦船から英・米・仏の兵士が上陸して、交戦状態になった。問題解決にあたったのが伊藤博史。事件の翌日、伊藤は長州から京に上るため神戸に着いた。面識あるイギリス公使ハリー・パークスと交渉。死者は出なかったが、備前藩家老謹慎、瀧切腹で決着した。備前藩には理不尽な結果だが、武士社会のしきたりは外交交渉では通じなかった。

現在「三宮神社」は繁華街のこじんまりした神社だが、昭和戦前は盛り場として賑わった。北側は芸者置屋のある花街だった。補註2

「二茶屋村」は現在の元町通4丁目・6丁目、栄町通4丁目・6丁目、海岸通4丁目・6丁目にあたる。室町時代徳仁年間[1467～69年]とも永禄年間[1558～70年]とも言われるのだが、二人の武士が戦乱を逃れ山手の中宮村にきた。古代から中宮村は諏訪山神社と3基の古墳を守る村とされる。陵墓警備の風習があり、家を6軒以上にはいけないという掟があった(註4)。二人は村を出て、西国街道で茶店を出した。これが「二茶屋村」の始まり。次第に人が増え、兵庫津の海運業発展に伴い、さらに増えた。1853(嘉永6)年で610家、2036人。古地図(写真)には2カ所に船入場・荷揚げ場が描かれている。酒造業も栄え、海辺に酒蔵が並んだ。註5

村の「善福寺」は境内で交易が行われたことから市場山(のち一乗山)と呼ばれた。1871(明治4)年、鉄道敷地になり、北側の下山手通に移転した。「西本願寺神戸別院」、インド風建築で知られる通称「モダン寺」だ。註5

江戸時代の学者・頼山陽(らいさんよう、1781～1832年)が当時の風景を漢詩「酒」に詠んでいる。読み下し文で紹介する。

「酒家の粉壁(ふんべき)は晴波に映えて／官道の乾沙(かんざ)淤河(よう)を度(わた)る／風景依然たり人老いんと欲す／楠公墓下十たび経過す」註6

酒蔵の白壁が青い空と海に映えている。私は街道の水のない砂川を渡る。風景は変わらないが、私は老いを感じる。この間、楠公の墓前を10回往来しているだけである(補足、神戸は山と海が近く、川は大雨で急流になり水害が多発するが、普段は水が少ない)。

頼山陽は大坂生まれ、父は儒者で広島浅野家に仕えた。山陽は成人して京に住み、幼い頃から西国街道を往復した。尊皇の心篤く、機会あるたび楠公の墓をお参りした。山陽の師・菅茶山(かんさざん、ちやざん、1748～1827年)も、「月は暗し楠公墓畔の村」の詩を残している。補註3

「二茶屋村」の名は元町商店街の和菓子屋「二

つ茶屋」に残っている。私が小学生の頃、宇治川商店街に同名のカレー店があった。

「走水村」は現在の元町通5丁目、栄町通5丁目、海岸通5丁目。「二茶屋村」に囲まれた形で、その飛び地もあった。1875(明治8)年、菅原道真を祀る「天神」社に北側の「八幡」社が合祀され、「走水神社」になった。史料では「走水」は「はしうづ」と書かれる。地名由来には、西を流れる宇治川水害説(走り水)と古代氏族「間人(はしひと、はしうど)」説がある(註5)。幕末、「間人氏」は寺子屋「間人塾」を開いていた。1886(明治19)年には間人たねが「間人幼児保育場」(幼稚園)を開設した。註7 「八幡」社の東側には「極楽寺」(真言宗)があったが、1922(大正11)年頃移転、跡地に「元町ギルド」(小売店集合店舗)ができた。

江戸時代の間に三カ村とも人口が増え、町場となった。

〈……遅くとも寛政年間(一七八九～一八〇一)には、三カ村の中に大手町、浜之町、札場町、松屋町、沖之町、西之町、城下町、東本町、西本町、八幡町、市場町の町名が生まれたという。江戸中期の『行程記』には三カ村の街道はびっしり人家が立ち並び、「神戸町」と書かれている。〉註4

1868(明治元)年、三カ村が合併して「神戸町」に改称、それぞれの町名は「神戸大手町」などと使われた。75(明治7)年、元からの町場という意味で「元町通」に改称し、ここの旧地名も残っていない。註4

註1 『日本歴史地名大系 兵庫県地名I』平凡社、1999年
註2 <https://www.kameido-honke.co.jp/>
註3 <https://www.kameido.co.jp/>
註4 神戸史学会編『新 神戸の町名』神戸新聞総合出版センター、1996年
註5 大田正美『古地図で見る神戸 昔の風景と地名散歩』神戸新聞総合出版センター、2013年
註6 宮崎修二郎『ひょうご歌ごよみ』兵庫県書籍協同組合、1984年
註7 日本の近代を語る会編『識る力——神戸元町通で読む70章』ジャパンメモリー、2007年
補註1 このとき事代主命(ことしろぬしのみこと)を長田神社に、海の神々を住吉大社に祀った。生田神社は布引の山上にあったが、799年洪水により現在の場所に移った、と伝えられる。神社周辺は「生田宮村」だが、民家はほとんどなかった。周辺の村々に生田裔神八社(一宮神社から八宮神社)が氏神として鎮座している。

補註2 三宮神社敷地は現在より北側・東側に広がった。映画館・芝居小屋など5軒、喫茶店が5～6軒、露店や飲み屋もあった。観光・買い物客の流れは、西から新開地、福原遊郭、湊川神社、元町商店街、三宮神社境内から三宮本通(センター街)、阪神電車滝道駅(現在のそごう前)、小野中道筋商店街であった。小林正信『あれこれと三宮』(三宮ブックス、1986年)、加藤政洋『神戸の花街・盛り場考 モダン都市のにぎわい』(神戸新聞総合出版センター、2009年)参照。

補註3 菅茶山「生田に宿りて、〈千歳の恩響両(ふたつながら)存せず 風雲長(とこしえ)に 為に忠魂を弔う 客窓一夜松籟を聴く 月は暗し楠公墓畔の村」(『ひょうご歌ごよみ』)。荒尾親成(「神戸にきた史上の人々」中外書房、1965年)は茶山・山陽の宿は二茶屋村の有力者・橋本家と推察する。



「開港神戸之図」(『こうべ元町100年』元町地域PR委員会発行、1971年)より。

出来事ファイル (No.19－10)

□D51まつりを開きます

D51がきらら広場から現在地へやってきて37年になります。このD51は昭和18年2月、日本車両名古屋本店で製造完成したものです。材料も熟練工も不足する頃でした。厳しい時代のなかで誕生したD51が、東海道発祥の地、神戸駅の近くで余生を過ごしてきましたが10月14日(日)10時から、弊協議会の主催でにぎやかに「D51まつり」を開きます。



■蓮池委員 市商連副会長に就任

元町1番街商店街振興組合理事長で弊協議会理事をつとめる蓮池國男氏は、神戸市商店街連合会が6月に開いた通常総会で副会長に就任された。同連合会は、神戸市内の商店街を束ねる連合会で、神戸市内の商店街組織によって運営されている。かつては弊協議会の現奈良山喬一会長が、神戸市商店街連合会会長として、長年、活躍されてきた。



□中央区ロードレース大会

神戸元町商店街連合会も協賛する37回目の中央ロードレース大会が12月15日(日)、HAT神戸・なぎさ公園を会場に開かれます。小学校2年までの親子組から小学生(1300m)、中学生(男3000m・女2000m)、高校生(男5000m。女3000m)、一般男子(5000m)、一般女子(3000m)に分かれてスタート。

参加申し込みは☎333-3372まで。



■小学生も16名が参加して救急パレード

今年の救急パレードは9月7日(土)午後2時からスタートした。開会式は、関係者あいさつのあと消防車も参加して元町6丁目商店街から1番街に向かってスタート。こうべ小学校から森田博翔くんら9名、山の手小学校から千原漣くんら7名、あわせて16名が参加、消防団制服に身を包んだ16名が先導役をつとめ、元町1番街商店街までパレードした。



■美しい水のサイクルを

9月8日(日)、元町3丁目商店街で神戸の下水道展が開かれた。神戸市建設局下水道部から、下水処理場のしくみや使った後の水処理の流れ案内のほか、下水にまつわる悪質商法への注意事項、トラブル発生時の窓口案内、集合住宅の水回り相談窓口の紹介などをPRした。きれいなまち、きれいな水のために暮らしに密着した下水道へのおもいやりを。



■神戸駅東地区クリーン作戦

第1水曜日の9月4日、神戸駅東地域のクリーン作戦を実施した。参加したのは奈良山会長以下エスタシオン・デ・神戸のみなさん、ネットヨタ兵庫(樹従業員のみなさん)のほか、元町通7丁目自治会からも地元道路路を対象に2名が参加した。



■“里親”って知ってる？

いろいろな事情で、自分の家族と暮らせない子どもたちを「家庭」に迎え入れ、育てていただく方を「里親」と呼んでいます。里親のもと、親子ともども幸せな生活をおくることになるといいですね。里親について広く知ってもらおうと8月25日(日)まちづくり会館前で、クイズを交えた展示会がありましたよ。里親に関心のある方は、神戸市こども家庭センター(☎382-2525)又は家庭養護促進協会神戸事務所(☎341-5046)まで。



■まちづくり公社 移転

神戸すまいまちづくり公社は、長年親しまれてきた三宮駅近くのビルから新長田合同庁舎の8階に移転した。JR・市営地下鉄の新長田駅から徒歩約10分、または市営地下鉄海岸線、駒ヶ林駅から徒歩すぐのところに位置し、9月17日から新事務所で業務を始めている。新住所は神戸市長田区二葉町5丁目1－32、新長田合同庁舎8階。☎647－9720(総務課)



□読者プレゼント

特別展「お城ができるまでの姫路」

姫路市街地やその周辺に点在する古代からの寺社のほか、浜手や山側の各地域にも数多くの中世文化財が伝えられています。姫路に伝わるこれらの文化財を通して、現在の姫路城ができる前、中世姫路の姿を紹介する展覧会です。お城だけではない姫路の魅力を再発見していただく機会になれば幸いです。

鑑賞ご希望の方は、住所、氏名、年齢、本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着順で5組の方にペア招待券をお送りします。

期間：10月5日(土)～11月24日(日)
会場：兵庫県立歴史博物館(079-288-9011)

